

ご指導よろしく申し上げます。

第5学年1組 算数科学習指導案

日 時 平成14年6月21日(金)
第5校時(14:00~14:45)
場 所 可児市立今渡南小学校
南舎3階 5年1組教室
授業者 杉山 まりこ

1. 単元名 小数のかけ算とわり算

2. 学習指導要領の目標と内容との関わり

第5学年の目標

(1) 小数及び分数の意味や表し方についての理解を深める。また、小数の乗法及び除法の意味について理解し、それらの計算の仕方を考え、適切に用いることができるようにするとともに、分数の加法及び減法の意味について理解し、それらの計算の仕方を考え、用いることができるようにする。

第5学年の内容

[A 数と計算]

A(3) 小数の乗法, 除法

(2) 小数の乗法及び除法の意味について理解し、それらを適切に用いることができるようにする。

ア 乗数や除数が整数である場合の乗法及び除法の意味について理解すること。

ウ 小数の乗法及び除法の計算の仕方を考え、それらの計算ができること。また、あまりの大きさについて理解すること。

3. 単元の目標

- (1) 小数のかけ算やわり算の計算のしかたを理解し、日常生活に進んで活用しようとする意欲をもつ。
- (2) 小数に整数をかける乗法の意味と計算原理や方法を理解し、立式したり筆算で計算したりすることができる。
- (3) 小数を整数でわり、あまりのない除法の意味と計算原理や方法を理解し、立式したり筆算で計算したりすることができる。
- (4) 小数を整数でわり、あまりのある除法の意味と筆算方法を理解し、計算することができる。
- (5) 小数や整数を整数でわる除法で、わり進んで商が小数となる場合の計算原理や方法を理解し、筆算で計算することができる。
- (6) 小数や整数を整数でわる除法で、わりきれない場合に商を概数で処理する方法を理解する。
- (7) 除法を用いて何倍かを求め、整数や少数を用いて何倍かを表すことができる。

4. 指導の立場

(1) 教材について

本単元では、小数×整数や小数÷整数の意味や計算原理を理解させ、さらに筆算で計算できるようにしていくことをねらいとしている。

単元の導入の小数×整数では、数直線を用いた考え方も扱った。これは、小数×整数の学習は初めて

だが、既習の整数×整数の学習を生かせば同じように考えて計算することができることに気づかせたいからである。また、数直線を用いた考え方は立式の根拠として有効に活用できると考えたからである。そして、小数×整数の計算は、0.1 を単位にして考えると、整数×整数と全く同じ考え方でできるということを学習する。そのような学習をしてきた上で、小数÷整数の計算を学習するので、前次の計算方法と関連付けながら類推的に小数÷整数の計算方法を見つけることができるようにしたい。

(2) 児童の実態(男子17人、女子11人)

小数×整数の学習では、塾に通っている児童もいて、すでに答えの出し方を知っている児童が約半数はいる。しかし、なぜそのような答えが出るのかや、どういう計算の仕方をしたのかを説明するのは苦手な児童が多い。そのため、計算の仕方を自分で考えノートに書く時間では、考え方がわからずぼーっとしていたり、考えるのを途中であきらめてしまったりする児童の姿があった。そこで、なぜそのような結果が出るのかという途中の過程が大切だと思うので、意見交流の時には出きるだけ多くの児童が黒板に自分の考えを書くようにしている。児童は、黒板に書くことは好きなようなので、このような場を設定することにより、自分の考えを書くぞという意欲をもってくれればいいと考えている。

本時においては、小数×整数の学習で経験した活動を生かして、追求することに対して充実感を味わってほしいと思う。

5. 研究テーマに関わって

平成14年度 可児市小教研算数部会研究テーマ
『わかる喜びと、追求する楽しさをめざした算数指導のあり方』

研究の重点

ねらいにせまる算数的活動のあり方
追求意欲を継続させるための手立て

【研究の重点】

本時は、「小数(1/10の位)÷整数の計算の意味を理解し、立式したり0.1を単位にして計算すればよいことがわかる」がねらいである。このねらいにせまるために、児童が、計算のしかたをじっくりと悩み、考える時間を大切に、児童が進んで自分の意見を出せるような交流の場を作っていきたい。

具体的な手立てとして、板書の工夫がある。それは、児童の主体的な活動をすすめるために、児童が考えを板書する場所を充分に取り、多くの児童の考えを学級全員で交流することができるようにしている。その中で、似ている考え方や、そうでない考え方にわけさせ、最もはやく簡単に正確に答えの出せる考え方を、児童自身に見つけさせていく。このような作業の中で、ともにわかる喜びや充実感を味わってくれたらいいと思う。

また、基礎基本の力をつけることに関しては、授業の終わりの方で、練習問題を解き、本時の場合でいうと、「0.1のいくつ分と考えて、整数のわり算に直して計算すればよい」ということが答えを出すときに、言えるかどうかを確認するということを繰り返していこうと思っている。

【研究の重点】

(1) 導入・授業の流れの工夫

本時では、実際に1.2.1のジュースを最初に示し、それを4等分するという体験させている。また、授業の最後に出てきた答えの通り、ジュースを分けるところも示し、児童がより意欲的に課題を

追求できるような意識の流れを作った。そして、数直線を示すことで、既習の学習を思いだし、見通しを持つことができるようにした。

(2) 交流の場の設定

黒板を交流の場として大切にしている。児童の意識が途切れないような流れのある板書をするように心がけている。そして、児童の考えを書く場所を必ず設け、多くの児童が書くことができるように仕切りを作っておく。こうすることによって、多くの考え方を交流し合ったり、いろいろな考え方ができるのだなと仲間の考え方を認め合ったりすることができたらいいと願う。また、その多くの考え方の中からともに「はかせ」を追求していくことで、みんなで「わかった。」と喜び合えることができるといいと考える。